# 研究・調査報告書

| 分類番号 | | 報告書番号 | 担当 |
|---|---|---|---|
| C-141 | | 21-422 | 独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター　佐久間寛之<br>独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター　松下幸生 |

**題名（原題／訳）**

Characteristics of Patients in Treatment for Alcohol and Drug Addiction Who Succeed in Changing Smoking, Weight, and Physical Activity: A Secondary Analysis of an RCT on Combined Lifestyle Interventions

アルコールおよび薬物依存治療患者のうち、喫煙、体重、身体活動の変化に成功した患者の特徴；複合的な生活習慣への介入に関する RCT の二次分析

**執筆者**

Rasmussen M, Hovhannisyan K, Adami J, Tønnesen H.

**掲載誌**

Eur Addict Res. 2021;27(2):123-130. doi: 10.1159/000510608. Epub 2020 Oct 20.

| キーワード | PMID |
|---|---|
| アルコール依存症、食事カウンセリング、薬物依存症、統合プログラム、ライフスタイルの変化、多因子ライフスタイル介入、身体活動、禁煙 | 33080594 |

要　旨

はじめに

アルコールや薬物依存症の患者は、より不健康なライフスタイルを送っていることが多く、高い死亡率や罹患率に拍車をかけている。したがって、通常の依存症治療の一環としてライフスタイルへの介入を検討することが重要である。

目的：　アルコールまたは薬物依存症の治療を受けている患者において、ライフスタイルの危険因子の変化を成功させるための予測因子を明らかにすることを目的とした。

方法：　6 週間の集中的な統合的生活習慣介入プログラム（The very integrated program; VIP）を用いた試験の二次分析を行った。患者はスウェーデンの Addiction Centres Malmö と Psychiatry Skåne で募集された。主要アウトカムは、ライフスタイルの変化の成功で、6 週間後と 12 ヶ月後の禁煙、1 日 30 分の運動習慣、体重偏りのなさを調査した。

結果：　RCT には合計 212 名の患者が参加し、この二次分析には 128 名が含まれた：6 週間時点で 108 名、12 ヶ月のフォローアップで 89 名であった。両方のフォローアップで合計 69 名の患者が回答者となった。フォローアップ率はそれぞれ 51%と 42%であった。6 週間後のライフスタイルの変更成功の予測因子として、より高い教育、少なくとも 2 つのライフスタイルの危険因子を持っていること、高い生活の質を持っていることが挙げられた。12 ヶ月後では、3 つ以上の危険因子を持つことが成功の予測因子であり、3 年までの教育水準は負の予測因子であった。

結論：　アルコールと薬物依存の他、いくつかの不健康なライフスタイルを持つことは、ライフスタイルへの介入を目的とした VIP 後の短期および長期のライフスタイルの変化の成功の有意な予測因子であった。同様に、教育も有意であった。この結果は、この脆弱な患者群における今後の開発・研究において考慮されるべきものである。